

令和2年度第4回 恵庭市史編さん委員会会議 議事録

日 時：令和3年2月5日（金） 15：00～15：40

場 所：市民会館2階 中会議室

出席者：＜編さん委員＞ 北越会長、山田副会長、中泉委員、山口委員、江里口委員、
高橋委員、宮田委員

（欠席者）曾根委員

＜事務局＞ 企画振興部長 大槻、企画振興部次長 大西
広報課長 橋場

＜業務受託者 担当者＞ 対馬

傍聴者：なし

議 題：

■報告事項

- （1）平中委員ご逝去に伴う委員不補充について
- （2）前回会議にて挙げた意見に関する検討状況について

■協議事項

- （1）市史編さん業務の委託期間について
- （2）市史原稿の内容について
 - ・ 第5編「産業」－第5章「商業・金融」
- （3）市史原稿の方向性について
 - ・ 第2編「近世の恵庭」－第3章「近世のイサリ シママツ」

■その他

会議内容（要旨）：

■報告事項

- （1）平中委員ご逝去に伴う委員不補充について
 - ・ 市史編さん業務がほぼ終盤に差し掛かっているため、前回の村上委員の場合と同様に、委員の補充をせず、現在の構成員で編さん作業を進めていきたい旨事務局より説明し、委員一同了承。
- （2）前回会議にて挙げた意見に関する検討状況について
 - ※下記の通り事務局（橋場課長）より説明し、委員一同了承。

- 第1編「自然・地勢」－第4章「動植物」－第3節「植物」
 - ・若干専門的な所が多かったが、同編同章第2節「昆虫」等と同様に、とりあえず資料としてそのまま残すということで、前回会議において了承いただいたところであるので、その方向で編さんを行う。
- 第5編「産業」－第6章「工業・鉱業」
 - ・図表が本文中にずらっと並んでいて見づらい点については、読み易さに配慮して配置を検討する方向で修正する。
 - ・高橋委員より提起された「森永乳業」については、本市に功績を残した企業であるため、本文中に追記する方向で調整する。
- 第11編「文化・スポーツ」－第2章「スポーツ」
 - ・高橋委員より提供のあったスケート場に関する資料を基に追記する方向で調整する。
 - ・各種大会の成績の項目で掲載されている個人名、団体名について、体育協会等と調整し掲載範囲を検討の上、再度一覧を作成し、次回会議あたりに委員の皆様へ提示する。
 - ・スポーツ少年団と体育協会加盟団体一覧表の並び順について、創立年順に並び変える方向で体育協会と調整している。
 - ・平中委員より提起された、スキー場と野球場（かしわ公園内）の開設に至る経緯について、もう少し詳述してほしいとの件については、意向を汲み取り情報を整理して追記する方向で調整する。

■協議事項

(1) 市史編さん業務の委託期間について

- ・当初契約は昨年の9月末までだったが、進み具合が遅かったため半年延ばし、今年の3月末までとし作業を進めていたところだが、未審議の原稿がまだまだ残っている状況であることから、年度を繰り越して作業を続けていきたい旨伝え、委員一同了承。

(2) 市史原稿の内容について

○第5編「産業」－第5章「商業・金融」

※誤植の訂正等、細かな内容については以下割愛。

- ・p. 5上段18行目「基地」について、米軍が駐留した幕舎のことか、日本の保安隊の基地のことか判然としないため、記述を調整する。
- ・p. 5下段に、戦後の商業の移り変わりについて記述しているが、別紙資料（高橋委員作成）のとおり、昭和30年代後半から個人商店の集合体がつくられ、昭和40年代には農協のスーパーマーケットが開店した経緯についても追記する方向で調整する
- ・p. 10～p. 13に記述されている第2節「恵庭市の主な商店街と振興策」について、最後の方に「フレスポ恵み野」や「黄金ショッピングセンター」を項目立てて記述

するか検討する。

(3) 市史原稿の方向性について

○第2編「近世の恵庭」—第3章「近世のイサリ シママツ」

《各委員からの意見》

- ・この原稿を読んでまず思ったのは、少なくともこれを執筆した人は、レフェリー（審査員）がいる研究誌、もしくは編集者がいる出版社から出ている出版物に投稿して、訂正されて戻され、書き直した経験が無い人だ。
- ・何を引用・参考にしたのかははっきりしないため、盗用した文章との見方もできる。自己出版の形態ならまだしも、市史にこのような文章を載せるのはとんでもない話である。
- ・歴史観も全然感じられない。中世から近世にかけての和人とアイヌ民族との関係・交易については、まず「道南十二館」における和人による支配、松前藩成立後の松前城下における本州商人とアイヌ民族の直接交易、藩士が道内各地の場所でアイヌ民族と交易を行う「商場知行制」、そしてシャクシャインの乱の後に始まった、場所での交易を商人に請け負わせる「場所請負制」へと変遷していくが、この流れの中で恵庭がどのような状況であったかが記述されなければ、恵庭市史の近世の話にはならない。執筆者に歴史観がないため、何が大事な部分であるか、削っても良い部分であるかが分かっておらず、どこから引用したのか分からない文章がただ並記されている。
- ・果たしてこの執筆者に本章を書き直すことができるのか疑っている。ある程度の歴史観が無いと書けないのではないかと思う。
- ・自分は千歳郡恵庭町の時代から恵庭に住んでいて、今年市制施行50周年を迎えた。この間、街が発展し都市化されて人口も増え、物凄く住環境が良くなり、住民満足度が高くなってきていると思う。凄いスピードで世の中が変化し、その中で恵庭がどのように発展し住民の安心と安全、そして幸せ感を作り上げてきたのか、その足跡を残すということが新しく市史を編さんする上で大事なかなと思っていた。今後どのように発展し開発されて環境が整備されていくかという未来志向でこの恵庭市史が参考になればと思うので、個人的には知らないことが多い近世の恵庭についての記述は要らないかなと感じている。
- ・前回の市史でこの時代のことをどういう風にかけていたのかなと思い読んでみたが、物凄く分かりやすかった。直す必要が無いんじゃないかと素人目で思った。新しい市史では、前回の市史をベースに、付け加えなければならない、また直さなければならない所はどこか精査していく形で良いような気がする。
- ・前回の市史が書かれてから約50年間の間に、対アイヌ観、歴史観がかなり変わった。私が開拓記念館の職員だった時に、私の同僚の先輩であるが、中近世の北海道史、それから北海道史の編集所において近世の経済史を主に研究していた研究者と一緒に職場にいたが、彼らと一緒に仕事をしていて、対アイヌに関し新たに発

見、書かれたことの情報量が、前回の市史が出された時点とかなり変わっていた。それに付随し対アイヌ史観というのがかなり変わってきている。かつてのアイヌ文化というのは結局文書に残されたものだけが原点になっていて、今ではそれ以上の色々な研究記録が出てきており、新しい対アイヌ史観というのが出来てきている。それがこの原稿では全然窺えない。なのでこの原稿の執筆者は確かに歴史を専門にされているかもしれないが、そういったものを踏襲していないのはどういったことなのかなと感じる。あまりにもひどい。

- ・市史編さんの基本方針の中に、広く市民に親しまれること、そして平易な文章で読みやすいものになるようにと謳っている。それなのにこんな難しい文章を出してしまうと、読んで理解できる市民はいないんじゃないかと思う。
- ・本章の前に、以前内容の方向性について協議した、第2章「古代・中世の恵庭」がある。あの章の原稿内では、これまでのアイヌ民族に対する見方が変わってきていることが書かれていた。それと本章に整合性がない。なので事業者の方で、本章の前に第2章「古代・中世の恵庭」があつて、その後が続いて近世の恵庭が出てくるといふ風に調整してもらわないと、書物として内容の連続性に欠ける。

《総括》

- ・業務受託者には、この原稿をどう修正するかというよりも、前回の市史をベースに、同じような時代のところをもう一度チェックしてもらって、表現的に変える必要があるものを修正し、あるいは研究が進んで新たな項目が出てきているものを追加する、そして第2章との連続性を考慮して記述してもらい、また引用文献についてもはっきりと記述してもらおう。

■その他

- ・次回会議は4月初旬に開催予定。